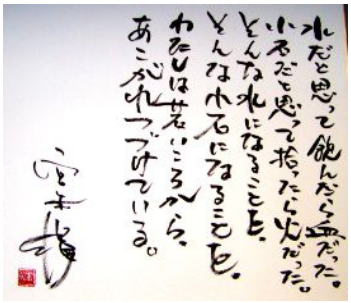
追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム　展示の手引き

2008 年、学校法人追手門学院は創立 120 周年を迎えました。「宮本輝ミュージアム」は、学院の創立 120 周年事業の一環として、2005 年 5 月、追手門学院大学附属図書館を改修し、開設しました。「宮本輝ミュージアム」では本学第一期卒業生で、作家として活躍する宮本輝氏の愛用品、直筆原稿などを常設展示しています。また、作品の世界を取り上げた企画展を開催し、広く一般の方へも公開しています。

宮本輝氏の著作を通して、学生及び市民の皆様に感動と共感の場を提供できれば幸いです。

プログラムディレクター橋本裕之

（追手門学院大学地域文化創造機構特別教授・追手門学院大学社会学部教授）



常　設　展

【東側】

◎年譜　　◎自筆の詩（ガラス板）

≪年譜下ガラスケース≫

●広辞苑　●インクと万年筆　●直筆原稿（複製）「生きものたちの部屋（3）『インクと万年筆』」

●湯のみ　●懐中時計（芥川賞正賞）　●グラス　●小物入れのかご　●水差し　●墨、筆

●硯　●自筆の書「正直であるということの凄さ」（複製）

○追手門学院大学第一期生卒業記念アルバム（在学中の写真）・第二期生卒業記念アルバム（茨木学舎全景）

○追手門学院大学三十年史　「創立三十周年を祝して（宮本輝）」

○読売新聞記事　昭和 57 年（1982）7 月 26 日（月）夕刊　1 面・3 面　パネル

【北側・展示架】

①作家活動のはじまり

1977 年デビュー作「泥の河」と「螢川」を相次いで『文芸展望』に発表。「泥の河」で第 13 回太宰治賞、「螢川」で第 78 回芥川龍之介賞を受賞した。この 2 作は 1978 年に発表された「道頓堀川」とともに「川三部作」として著者の代表作となった。

『螢川』『道頓堀川』『川三部作　泥の河　螢川　道頓堀川』『幻の光』『星々の悲しみ』

②初期の作品

芥川賞受賞後、肺結核を発病し、約 2 年間の療養を余儀なくされた。復帰後、旺盛な創作活動が開始される。

『ドナウの旅人（上・下）』　『錦繡』と冒頭部分原稿（複製）

③初めての海外取材

1982 年「ドナウの旅人」執筆取材のため、ドナウ川流域を訪問。以後、毎年のようにヨーロッパ諸国等へ取材旅行。

『異国の窓から』

④映画化された代表作

1982 年「泥の河」が小栗康平監督によって映画化され、モスクワ国際映画賞銀賞ほかを受賞した。

以後、多くの作品が映画化、ドラマ化されている。

「優駿」競走馬の世界を描いた作品で、日本中央競馬会から第一回馬事文化賞を受賞。

1987 年に吉川英治文学賞を受賞し、1988 年映画化された。

『優駿（上・下)』　映画『優駿』DVD と映画パンフレット　　映画『幻の光』　ビデオ

⑤海外を舞台にした作品

『愉楽の園』　タイを舞台にした作品。著者が最初に書いた小説「弾道」が作品の原型となっている。

⑥青春時代を描いた作品

『青が散る』と連載第 1 回冒頭部分原稿（複製）　　新設大学に入学した椎名燎平はテニスコートのないテニス部に所属する。燎平の恋や友情、青春をテニスとともに描いた作品。

『春の夢』『二十歳の火影』

⑦“父と子”を描くライフワーク『流転の海』

敗戦後の昭和 22 年、50 歳で長男を得た松坂熊吾の半生を描く大河小説。1982 年著者 35 歳の年に執筆が開始された。当初は全五部作の予定だったが徐々に延び、現在は全九部作となる予定である。

連載第 1 回冒頭部分原稿（複製）と『流転の海　第一部』(福武書店)

第一部『流転の海』　第二部『地の星』　第三部『血脈の火』　第四部『天の夜曲』

第五部『花の回廊』　第六部『慈雨の音』(新潮社)

⑧青春と読書

13 歳の日、井上靖著『あすなろ物語』を読んで以後、読書に耽溺した。本や小説は、波間にただよう小舟のような、14 歳から 18 歳までのよるべない時代の支えのような存在であっただろう。

『本をつんだ小舟』思い出の作品と読書体験を記した作品。宮本輝編纂のアンソロジー集

⑨『川三部作』

筑摩書房　1985 年刊。限定 200 部中の第 187 番

⑩作家　宮本輝を知る本

『新潮四月臨時増刊　宮本輝』新潮社　1999 年 4 月刊

⑪「優駿」

連載第 1 回冒頭部分原稿（複製）

⑫海外に翻訳された作品

1986 年の『泥の河』中国語版発行以後、中国語、フランス語、英語、ハングル語、ロシア語などへの翻訳書が多数刊行されている。

『彗星物語（上・下)』(原書　角川書店 1992 年刊）とハングル語版（Koreaone Press1993 年刊）
訳者は金賢姫

⑬恋愛をテーマにした作品

『私たちが好きだったこと』

⑭「ドナウの旅人」以降の新聞連載（１）

『花の降る午後』角川書店　1988 年刊（1985 年 7 月～1986 年 2 月『新潟日報』等に連載）

『海岸列車（上・下）』毎日新聞社　1989 年刊（1988 年 1 月～1989 年 2 月『毎日新聞』連載）

『ここに地終わり海始まる』講談社　1991 年刊（1990 年 3 月～11 月『福島民友』等に連載）

⑮「ドナウの旅人」以降の新聞連載（２）

『朝の歓び（上・下）』講談社 1994 年刊（1992 年 9 月～1993 年 10 月『日本経済新聞』連載）

『人間の幸福』幻冬舎　1995 年刊（1994 年 5 月～1995 年 1 月、『産経新聞』連載）

『草原の椅子（上・下）』毎日新聞社 1999 年刊（1997 年 12 月～1998 年 12 月『毎日新聞』連載）

『約束の冬（上・下）』改訂版文藝春秋 2004 年刊（初版 2003 年刊）（2000 年 10 月～2001 年 10 月『産経新聞』連載）

⑯阪神淡路大震災後の作品

作家自身もこの大震災によって被災した。震災の渦中、日々増大していく被害は、連載終盤を迎えていた『人間の幸福』最終章にも影響を与えた。

『森のなかの海（上・下）』震災当日の朝から始まる物語

⑰シルクロードへの旅

1995 年 5 月、約 1700 年前に膨大な経典の漢語訳をなした鳩摩羅什（クマラジュウ）の足跡を辿る 40 日間にわたるシルクロードの旅に出た。**『ひとたびはポプラに臥す』旅の紀行文集**

『星宿海への道』　『胸の香り』シルクロードの旅に題材をとった短編「道に舞う」を収録。

⑱2005 年ミュージアム開設以後の発表作品

『にぎやかな天地（上・下）』中央公論新社 2005 年刊（2004 年 5 月～2005 年 7 月『読売新聞』連載）

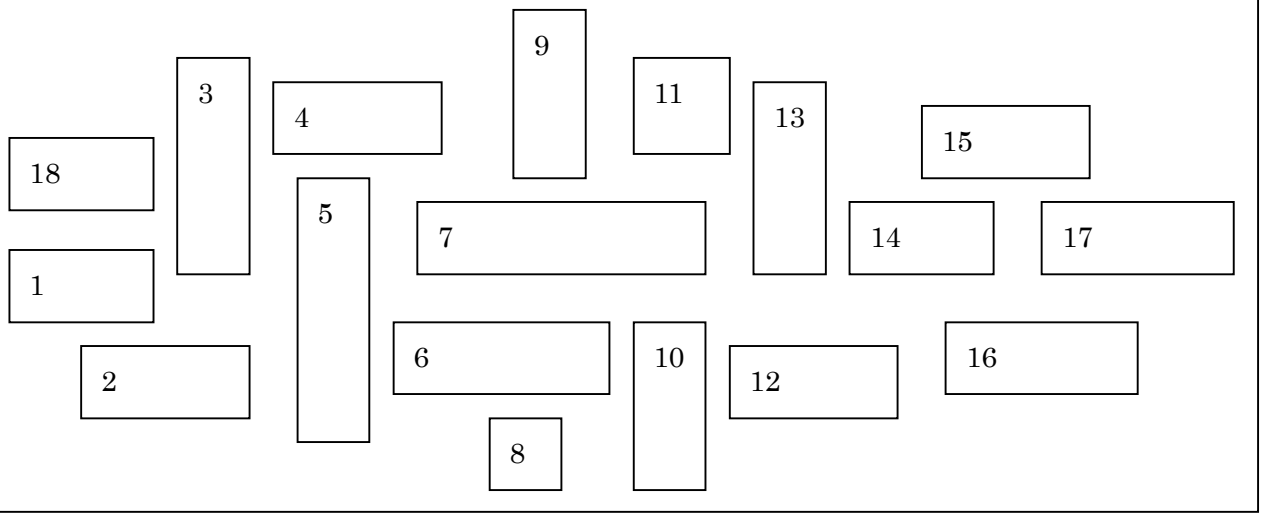
『骸骨ビルの庭（上・下）』講談社　2009 年刊（2006 年 6 月～2009 年 2 月『群像』連載）

『三千枚の金貨（上・下）』光文社　2010 年刊（2006 年 4 月～2009 年 8 月『BRIO』掲載）

『三十光年の星たち（上・下）』毎日新聞社　2011 年刊（2010 年 1 月～2010 年 12 月『毎日新聞』連載）

『水のかたち（上・下）』集英社　2012 年刊（2007 年 10 月～2012 年 7 月『éclat』掲載）

北側展示架番号　※上記番号は展示架の番号です



追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム　2013年度　前期企画展

「小説から映画へⅠ」展

展示期間：2013年3月26日～2013年9月26日

■ 映画ポスター、作品紹介コーナー

●映画「泥の河」ポスター
●映画「螢川」ポスター
●映画「道頓堀川」ポスター
●映画「草原の椅子」ポスター

●「泥の河」作品紹介パネル
●「螢川」作品紹介パネル
●「道頓堀川」作品紹介パネル
●「草原の椅子」作品紹介パネル

展示ケース内

映画に関する資料

＜表面＞

●『文藝展望』　1977年18号（「泥の河」初出）筑摩書房刊
●映画「泥の河」シナリオ決定稿　（寄贈：小栗康平氏）
●映画「泥の河」パンフレット　（寄贈：小栗康平氏）
●映画「泥の河」海外上映用チラシ　（寄贈：小栗康平氏）
●映画「泥の河」海外映画祭プレス用パンフレット　（寄贈：小栗康平氏）

＜裏面＞

●映画「道頓堀川」パンフレット　1982年松竹
●映画「螢川」パンフレット　1987年松竹
●『螢川』文庫本（表紙に映画のシーンが使用されています）角川書店刊
●映画「草原の椅子」パンフレット　2013年東映
●映画「草原の椅子」監督、出演者直筆サイン色紙（成島出監督/佐藤浩市氏/西村雅彦氏）

参考資料

●ネスカフェゴールドブレンド宮本輝コレクション（宮本輝出演TVCMのプレゼント品）
・［川］［細流］［あかり］

■「泥の河」コーナー

●小栗康平監督　紹介パネル
●映画「泥の河」スチール写真　（寄贈：小栗康平氏）
・信雄が銀子に足を洗ってもらうシーン
・天神祭りへ出かけるシーン
・信雄が喜一の船を追いかけるラストシーン
●安治川　紹介パネル
●映画「泥の河」シナリオパネル

ご来場の方々にもシンボル展示の沢蟹作りにご参加いただけるよう、沢蟹制作スペースを設けました。折り紙と沢蟹の折り方の説明書をご用意しております。

■シンボル展示　“燃える蟹”

「泥の河」で最も印象的なシーンの１つ、喜一が生きている蟹に火をつける場面に触発された展示です。

メッセージコーナー

ご来場の方々からいただいた「小説から映画へⅠ」へのメッセージを展示しています。

■映像コーナー

・「泥の河」の舞台をたどる　（当館オリジナル映像）

■「螢川」コーナー

・富山市紹介パネル１　現在の富山
・富山市紹介パネル２　昭和30年～40年頃

■「草原の椅子」コーナー

・「草原の椅子」の舞台を探そう！　特大タペストリー「宮本輝シルクロードの旅　足跡図」
・成島出監督　一問一答
・映画撮影風景写真　（提供：東映株式会社）

■「道頓堀川」コーナー

・小説「道頓堀川」舞台紹介（道頓堀川界隈）
・映画「道頓堀川」ポスター

■どの映画のシーンかわかる？

映画４作品からそれぞれ３つのセリフを抜き出しました。

〒567-8502　大阪府茨木市西安威 2-1-15
追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム
2005年5月21日発行　2013年3月26日改訂（第27版）